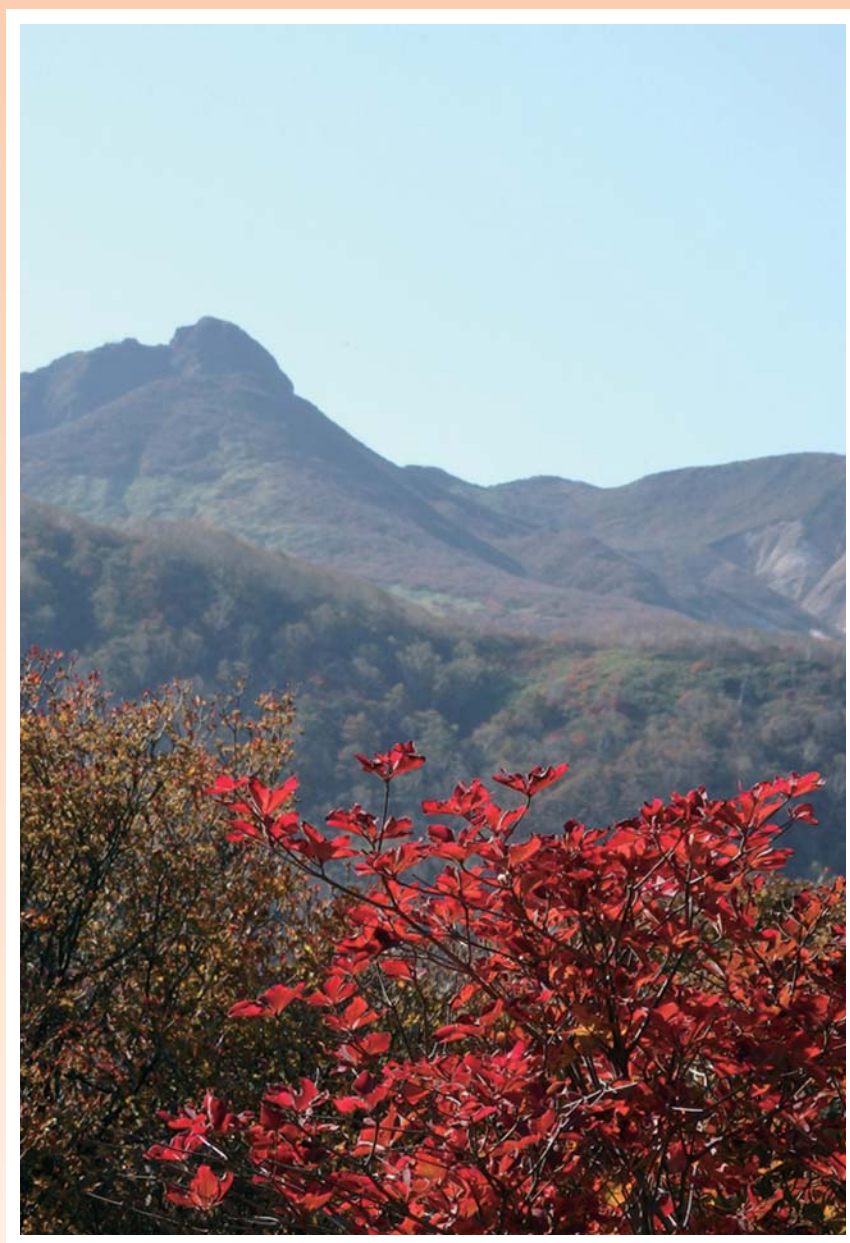


「教える育てる道徳教育」指導資料

ふるさと とちぎの心

栃木県道徳教育郷土資料集（小学校高学年編）



教師用指導書

平成27年3月
栃木県教育委員会

はじめに

平成18年に教育基本法がおよそ60年ぶりに改正されました。「人格の形成」を目指している我が国の教育において、一人一人の児童生徒が夢や希望をもち、自らの力で困難を乗り越え、力強く未来を切り拓いていける豊かでたくましい心を育てていくことが必要です。このような豊かな心の育成は、平成20年3月に告示された学習指導要領においても、改訂の柱の一つに位置付けられており、学校における道徳教育の充実がこれまで以上に求められています。

栃木県教育委員会では、平成23年3月に策定した「とちぎ教育振興ビジョン（三期計画）」の中で、道徳教育の充実を重要施策の一つとして位置付け、道徳教育に関する様々な取組を進めているところです。特に、日常的な生活場面を含むあらゆる教育活動の中で「人として、してはならないこと、すべきこと」をしっかりと教えるとともに、道徳の時間を中心に、教えた内容との関連を十分に図りながら道徳的実践力を育み、各学年段階で必要な道徳性を身に付けさせたいと考え推進している「教え育てる道徳教育」は本県独自に掲げているものです。平成23、24年度には「とちぎの子どもたちへの教え～人として、してはならないこと、すべきこと～」リーフレットや、『『とちぎの子どもたちへの教え』指導事例集』を発行し、「教え育てる道徳教育」の「教える」部分に焦点を当てて資料を作成してきました。このたびは「育てる」部分にも焦点を当てて道徳の時間の充実に資するため、「ふるさと とちぎの心

栃木県道徳教育郷土資料集（小学校高学年編）」を作成しました。本県の子どもたちが、栃木県に関わりの深い人物の思いや生き方、自然や伝統文化のすばらしさについて考えることを通して、豊かな心を育むとともに、自分自身、家族、そして自分たちの住む地域に誇りをもった人になってほしいと願っています。

また、本書「ふるさと とちぎの心 栃木県道徳教育郷土資料集（小学校高学年編）教師用指導書」は、各読み物資料の解説や、道徳の時間に活用する際の展開例、留意点等を示しています。各学校におかれましては、本資料集刊行の趣旨を御理解いただき、積極的に活用され、児童一人一人の心に響く道徳教育が展開されますよう御期待申し上げます。

終わりに、本資料の作成に当たり御尽力いただきました関係者の皆様に、心から感謝の意を表します。

平成27年3月

栃木県教育委員会教育長 古澤 利通

目次

はじめに

	資料名	道徳の内容項目		とちぎの子どもたちへの教えとの関連	頁
1	いちご一筋 仁井田一郎	1- (2)	希望・勇気・不とう不屈		1
2	よみがえった法隆寺の壁画 - 荒井寛方 -	1- (2)	強い意志		3
3	いつでもどこでも	2- (1)	礼儀	「時と場をわきまえる」	5
4	心に灯をともした鉢の木 - 鉢の木物語 -	2- (2)	思いやり・親切	「異なる立場を大切に する」	7
5	はが路100km徒歩の旅	2- (3)	真の友情	「人々と助け合う」	9
6	ポイ捨てされたゴミ	4- (1)	公德心・規則の尊重・権利・義務	「法やきまりの意義を 理解する」	11
7	もう一つのワールドカップ を知って	4- (2)	公正・公平		13
8	お囃子会での活動を通して	4- (3)	役割と責任の自覚	「集団の中で自分の役割を 果たす」	15
9	須賀神社の落ち葉はき	4- (3)	役割と責任の自覚	「集団の中で自分の役割を 果たす」	17
10	わたしの生きがい	4- (4)	勤労・社会奉仕		19
11	いつもふわふわ魔法のパン	4- (4)	勤労・社会奉仕		21
12	明と祭り	4- (7)	郷土愛		23

参考資料..... 25

- ・「とちぎの子どもたちへの教え ～人として、してはならないこと、すべきこと～」
- ・現職教育資料「学校における道徳教育の充実 ～道徳教育の基本的な理解のために～」

1 いちご一筋 仁井田一郎

【資料本文 p.1】

1 資料について

- ・ 栃木といえばいちごの産地として有名であるが、本来温暖な地域で育成されるいちごについて、苗を譲り受けることから始め、栃木の自然環境に合ったいちご作りの導入や新しい栽培方法など、栃木県のいちご作りの基礎を築いた仁井田一郎さんの姿が描かれている。
- ・ 「農家の人の収入を増やし、暮らしを楽にさせたい。」という、高い目標を掲げた一郎さんは、周囲から反対されようとも、労を惜しまず技術を学び、試行錯誤しながら粘り強く研究を重ね、3年後にやっといちごの実を付けることにたどりつく。収穫が可能となったのは5年目である。その後も一層強まる情熱のもと、高値で売るため収穫時期を早めた「山上げ栽培」を成功させる。さらには、「栃木を日本一にする」という目標も掲げながら、努力や工夫を積み重ねた。そして、いちご作りに取り組み始めてから18年後、ついにそれは現実となった。常に周囲のことを考えていた一郎さんは、究極の目標「豊かな農村作り」を見事に実現させた。
- ・ 小学校高学年は、児童それぞれが高い理想を追い求める時期だといわれる。ある人物の生き方にあこがれたり自分の夢や希望がふくらんだりする。同時に、自信がもてなかったり現実とのギャップを意識したりする時期でもある。そのような時期だからこそ、固い決心を胸に努力し続けた一郎さんの不とう不屈の精神について考えさせることで、ねらいに迫りたい。そして、希望をもつことの大切さや夢に向かって粘り強く取り組もうとする人間の強さについても考えさせたい。

2 展開例

(1) ねらい

より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする心情を育てる。
〔1－(2) 希望・勇気・不とう不屈〕

(2) 展開 (ページ右)

3 活用上の留意点・工夫

- ・ この資料には、語句や時代背景等、児童にとっては、やや難しいと感じる内容も含まれている。展開前段で資料の整理と確認をする際には、学級の実態に応じて、教師が補足説明をする。
- ・ 「都道府県別いちご収穫量」を提示し、温暖でない地域にも関わらず1位となっているのは、一郎さんや多くの農家の努力があったことに気付かせることも考えられる。
- ・ 終末で、「私たちの道徳」(p.19)を活用し、目標に向かって努力を重ねた人に触れ、その人の言葉を読み、余韻を残す方法もある。

都道府県別いちご収かく量
平成25年(2013年)度産

1位	栃木県	26,000トン
2位	福岡県	17,500トン
3位	熊本県	11,900トン
4位	静岡県	11,500トン
5位	長崎県	10,700トン

〈農林水産省統計表 平成26年(2014年)から〉

4 参考資料等

- ・ 協力者、写真提供 仁井田一雄氏 (一郎氏の長男)
- ・ 農業試験場いちご研究所ホームページ <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g61/>
- ・ J Aグループ栃木ホームページ <http://www.tcchu-ja.or.jp/>
- ・ とちぎふるさと学習ホームページ <http://www.tochigi-edu.ed.jp/furusato/detail.jsp?p=14>

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応 (◎：中心発問 ㊦：補助発問)	指導上の留意点
導入	1 いちごについて知っていることを発表する。	○ いちごについて、どんなことを知っているか。 ・栃木でたくさん生産されている。 ・「とちおとめ」が有名。 ・ショートケーキにのっている。	○ 「いちご」、「一郎さん」、「『苺一筋』と書かれた色紙」の写真等を提示し、資料への興味・関心を高める。
展開	2 資料を読み、一郎さんの気持ちを考える。	○ いちご作りを提案したとき、一郎さんの胸の中には、どのような思いがあったのだろう。 ・農家の人の収入を増やしたい。 ・農家の人の暮らしを楽にさせたい。 ・いちご作りを成功させてみせる。 ◎ いちご作りがうまくいかず、植えては枯らし、枯らしては植えることを続ける中、一郎さんはどんなことを考えていただろう。 ・農家の人たちのために、何とかいちご作りを成功させたい。しかし、なぜうまくいかないのだろう。 ・他にいい方法はないのだろうか。 ・自分でやると決めたのだからあきらめたくない。けれど、うまくいかない。 ・こんなに頑張っているのに成功しないのだからもう無理だ。あきらめよう。 ㊦ 一郎さんは、なぜ、そこまでしていちご作りを成功させたかったのだろう。 ・農家の人を助けたい。 ・今、自分にできることはこれしかない。 ○ 「山上げ栽培」にも成功し、18年後、栃木のいちご収穫量が日本一になったとき、一郎さんはどんなことを考えただろう。 ・農家の人の収入が増えて、暮らしを楽にさせることができた。よかった。 ・夢が叶った。苦勞が実った。 ・これからも、もっと研究を続けよう。 ・私の思いを受け止め、みんなもやってくれた。	○ 農家の人たちが苦勞する姿を見て、周りから反対されても、農家の人たちの収入を増やすために、いちご作りに全力を注ごうと決意する一郎さんの思いに共感させる。 ○ 時間の経過と一郎さんの行動を捉えさせるとともに、試行錯誤しながらも、うまくいかないときの一郎さんの気持ちを考えさせる。 ○ 一郎さんの決意の理由とその経緯にも触れて、いちご作りを成功させたいという思いが一郎さんを突き動かしていることに気付かせる。 ○ 高い目標をもち、その実現に向けて頑張ってきた姿を捉え、努力し続けることの大切さについて考えさせる。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ これまでの生活から、目標に向かってあきらめずにやり遂げることができた経験やできなかった経験を思い出してみよう。	○ 達成には粘り強い姿勢が不可欠であることを捉えさせる。 ○ できなかった自分を語る児童には、それをみんなの前で言えたことを認め励ます。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ 児童にとって身近に感じられる話題で、自分の決めたことを粘り強くやり遂げたことについて、新聞記事等から選び紹介したり、教師自身の体験談を紹介したりする。

2 よみがえった法隆寺の壁画 あら い かん ぼう — 荒井寛方 —

【資料本文 p.5】

1 資料について

- ・ この資料は、荒井寛方が法隆寺の金堂の中にある壁画の模写を依頼され、どんな困難があってもくじけず粘り強くやり通したという内容である。
- ・ 63歳になった寛方は、病気のために手が不自由だったが、模写の仕事を引き受ける。担当した「薬師浄土図」と呼ばれる壁画は、はがれ落ちている所が多く、もとの様子をはっきり見えないので、1日中一生懸命に取り組んでも3センチメートル四方を仕上げるのがやっとであった。その上、仲間の中から、病気や仕事への不満を理由にやめる者が出てきた。しかし、このような状況にあっても、寛方は価値あるものを後世に伝えるのが自分の務めであると心に決め仕事を続け、依頼された壁画の模写をほぼ完成させてから亡くなる。
- ・ この資料は、寛方の画家としての仕事への姿勢が描かれている。寛方の心情を共感的に捉えることを通して、あきらめることなく粘り強くやり抜くことの大切さを感じ得るようにしたい。

2 展開例

(1) ねらい

より高い目標を立て、困難や障害にくじけないで粘り強く物事をやり遂げようとする心情を育てる。

〔1 - (2) 強い意志〕

(2) 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応 (◎：中心発問 ㊦：補助発問)	指導上の留意点
導入	1 教師の説明から法隆寺金堂壁画について知る。	○ 法隆寺の金堂壁画について紹介する。 ・ 壁画模写という仕事があること。 ・ それは優れた技術と大変な労力(1日3センチメートル四方しかできない)を必要とすること。 ・ 本県出身の人物が壁画模写の仕事に関わっていたこと。	○ 資料への興味・関心を高めるようにするとともに、「3センチメートル四方」や「模写」等の難しい言葉について押さえておくようにする。
展開	2 資料を読み、寛方の気持ちを考える。	○ 「彼の後ろ姿は、…話しかけているかのようなようでした。」とあるが、この時の寛方はどんな思いだっただろう。 ・ 大役を任された。 ・ 歴史に残る大切な仕事に就くとは夢のようだ。大きな目標ができた。 ・ 苦しいこともあるだろうが、最後までやり遂げたい。 ○ 「寛方は、壁画をじっと見つめました。」とあるが、この時、寛方はどんな気持ちだっただろう。 ・ あと何年かかるのだろう。 ・ 仲間の気持ちもよく分かる。 ・ 自分もくじけてしまいそうだ。 ・ ここまでの努力を無駄にしたくない。 ・ 最後まで希望をもって頑張りたい。	○ 画家として経験もある仕事だが、高齢で手が不自由というリスクがあることを押さえる。その上で、この仕事に価値を見出し、高い目標をもって臨もうとする寛方の意気込みを理解させる。 ○ 苦しい状況におかれた寛方の揺れ動く気持ちを考えることを通して、理想と現実を知り、人間は誰しも弱さと強さの両面をもっていることを理解させる。

		<p>◎ 「やりかけたことは、やらんといけませんでしょうね、君。」と言った寛方の思いとは、どんなものだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中途半端な気持ちで仕事をしてはいけない。 ・自分で決めた目標だから、最後までやり遂げたい。 ・この仕事は、価値のあるすばらしいものだ。頑張っていていきたい。 <p>■ なぜ寛方は途中で挫折しないで仕事を続けることができたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって努力できる強い気持ちの持ち主だったから。 ・つらいことがあってもやり遂げる実行力があったから。 	<p>○ 様々な問題を抱えながらも、寛方は目標に向かって仕事をやり通そうとする強い意志があることに気付かせる。</p> <p>○ 寛方が仕事を続ける気持ちになった原動力は、自分で立てた高い目標があったからであることに気付かせる。</p> <p>○ 人間には、挫折感を克服する強さがあるということにまで価値理解を広げることも考えられる。</p>
	3 これまでの自分を振り返る。	<p>○ これまでの生活から、目標を自分で立て、最後までやり遂げた経験やできなかった経験を思い出してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持久走大会で自己ベスト記録を出すという目標を立てて毎日こつこつと努力することができた。 ・ピアノで難曲に挑戦したが、曲の後半は両手で弾けず、右手でしか完奏できなかった。 	<p>○ 自分で目標を立てたものの、くじけてしまった経験も認めつつ、目標に向かって粘り強く努力することで、強い意志や希望をもつことの大切さについて、捉えさせる。</p>
終末	4 目標に向かって努力を重ねた人たちについて知る。		<p>○ 「私たちの道徳」(p.20)を読み、偉人と言われる人たちも挫折や苦勞を乗り越えてきたことに気付かせる。</p>

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 「薬師浄土図」は、どのようなものであるか事前に写真などを掲示しておくといよい。
- ・ 壁画の模写は、髪の毛ほどの傷でさえも実物通りに写す優れた技術が必要な作業であることを導入で強調しておく。
- ・ 3センチメートル四方が実際どのくらいの大きさなのか、黒板等に示すことで、作業の大変さに気付かせるようにすることも考えられる。

4 参考資料等

- ・ 「ふるさとの心に学ぼう」(栃木県道徳学習郷土資料集〈小学校高学年・中学校編〉平成12年2月 栃木県教育委員会)より一部改作して再掲載
- ・ 写真提供 さくら市ミュージアムー荒井寛方記念館ー

3 いつでもどこでも

【資料本文 p.9】

1 資料について

- ・ この資料は、学童クラブに通う優太とその迎えを担当するバスの運転手さんとの交流を題材にした読み物資料である。優太は出会った日の挨拶をきっかけに「気持ちを込めて元気に挨拶しよう」と思い続けていたが、学年が進むにつれて、いつの間にかその気持ちが薄れていった。

ある日の夜、家族での外食を終え店を出ようとする時、後ろから名前を呼ばれる。振り向くと、毎日会っているバスの運転手さんだった。挨拶を返すことなく会釈だけして店を出てしまったが、このことをきっかけに出会った頃のことを思い出す。そして、これまでの自分の挨拶を振り返り、「よし、明日からは……。」と心に決める。

- ・ 礼儀の意義や時と場に応じた言動の大切さについては理解できていても、恥ずかしさなどもあり、時として心のこもった挨拶ができない場合が考えられる。優太のような考え方は誰にも共通するものであり、身近な問題として捉えることができる。その上で、運転手さんとの挨拶で緊張がほぐれたときのことなどに十分共感させたい。さらに、そんなやりとりをくり返すうちに、自分らしい挨拶が確立してきたことについて考えさせることで、ねらいに迫れるようにしていきたい。

2 展開例

(1) ねらい

礼儀の形に込められた相手を尊重する気持ちを考え、相手の立場に立って心のこもったあいさつをしようとする態度を育てる。

〔2－(1) 礼儀〕

とちぎの子どもたちへの教え「時と場をわきまえる」と関連

(2) 展開（ページ右）

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 事前のアンケートでは、どんな場面でどんな挨拶をするのか、子どもたちの日常での場面（朝の挨拶や給食の時間、校外学習など）を取り上げる。その結果をもとに、自分にとっての挨拶について考えさせ、価値への意識付けをする。
- ・ 1年生の頃の運転手さんとのやりとりから、挨拶を返してもらおうと嬉しいことに気付かせ、自分から進んで「元気に挨拶しよう」と考えたことを押さえる。そして、高学年として、礼儀の形に込められた相手に対する気持ちを考え、自分らしい挨拶をしようとする優太の気持ちに気付かせたい。
- ・ 展開後段では、導入時のアンケートをもう一度取り上げ、これまでの自分の挨拶を振り返らせる。
- ・ 終末では、校長先生や登下校時にボランティアをしてくださっている方へインタビューをするなどして、子どもたちの日頃の挨拶に対する感想やメッセージを聞かせ、今後の意欲につなげるようにする。
- ・ 「私たちの道徳」(p.56～57)を活用し、心を伝える形について触れ、余韻を残す方法もある。

4 参考資料等

- ・ 平成25年度第38回「小さな親切」作文コンクール入選作品「いつでもどこでもぼくらしく」
- ・ 挿絵協力 細内俊久氏

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応 (◎：中心発問)	指導上の留意点
導入	1 アンケートの結果を見て、「挨拶」について考える。	○ 「いつ、どこで、どんな挨拶をしているか」というアンケートの結果を見て思うことを発表する。 ・自分からしている人が多い。 ・学校ではしているが、近所ではあまりしていない。	○ アンケート結果の感想だけでなく、資料につなぐために「自分にとっての挨拶」について想起させ、価値への方向付けをする。
展開	2 資料を読み、「ぼく」(優太)の気持ちを考える。	○ 運転手さんの「どういたしまして。また明日ね。」を聞いて、1年生の「ぼく」はなぜほっとしたのだろう。 ・運転手さんが優しく応えたから。 ・声が小さくなってしまったけれど、運転手さんが返事をしてくれたから。 ○ 「それなのに、ぼくは……。」と思ったのは、どんな気持ちからだろう。 ・レストランで会ったとき、きちんと挨拶をすればよかった。 ・バスの中以外の場所では、うまく挨拶できなかったな。 ・いつも運転手さんに挨拶はしていたけれど、形だけになっていたのかも。 ◎ 「ぼく」が「よし、明日からは……。」と思ったのは、どんな気持ちからだろう。 ・いつでもどこでも挨拶をしてくれる運転手さんを見習って「ぼく」も挨拶しよう。 ・気持ちが伝わるように自分から挨拶しよう。	○ 挨拶する前と、返事を返してもらった後の「ぼく」の気持ちに十分共感させるようにする。 ○ 「……。」の後に続く言葉を補うことで、どうしてそう思うのか考えさせ、恥ずかしさから挨拶ができなかったり、形だけの挨拶をしていたりしていたことに気付かせる。 ○ 挨拶に込められた相手への思いに気づき、「心を込める」ことを改めて考えた「ぼく」の変容を捉えさせる。資料名が「いつでもどこでも」であることを考えさせてもよい。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ これまでの自分の挨拶を振り返ってみよう。 ・習慣は身に付いたけれど、気持ちを込めていないときもあった。 ・恥ずかしくて、なかなか自分からできなかったけれど、挨拶したときは気持ちがよかった。 ・笑顔で挨拶されて嬉しかったことがあったので、自分もそうしよう。	○ アンケート結果をもう一度確認したり、自分から挨拶したときや挨拶されたときを振り返ったりするを通して、改めて自分にとっての挨拶とは何かについて捉えさせる。
終末	4 写真やインタビュー映像を見る。		○ 日常生活で挨拶し合っている写真や、ボランティアの方の話を紹介することで、実践意欲を高める。

4 心に灯をともした鉢の木 —鉢の木物語—

【資料本文 p.13】

1 資料について

- この資料は、吹雪の夜、一夜の宿を求める旅僧に対して、大切にしていた鉢植えの木を薪代わりにくべて、温かくもてなした佐野源左右衛門常世の思いやりのある親切な行為を中心として構成したものである。(能の演目「鉢木」が元となっている話である。なお、常世の存在を示す資料は少なく、この話は創作であるとする説もある。)
- 見ず知らずの旅僧に対して、できる限りのもてなしをするその行為に、常世の温かな心遣いが表れている。その旅僧が実は北条時頼であったので、後にたくさんの褒美を頂くことになるが、誰に対しても思いやりの心をもって接する常世の日頃からの誠実な態度に着目させたい。そして、旅僧に対する常世の温かい思いやりの心に共感させることによって、ねらいに迫れるようにしたい。

2 展開例

(1) ねらい

だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。

[2-(2) 思いやり・親切]

とちぎの子どもたちへの教え「異なる立場を大切にする」と関連

(2) 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応 (◎：中心発問 ㊦：補助発問)	指導上の留意点
導入	1 教師の説明から佐野源左右衛門常世について知る。	○ 佐野源左右衛門常世について(写真等を掲示し)紹介する。 ・鎌倉時代について ・武士の生活について ・全国的に知られていることについて	○ 鎌倉時代(13世紀中ごろ)の話で、全国的に有名な話であることなどに触れ、資料への興味・関心を高めるようにする。 ○ 社会科の学習と関連させることも考えられる。
展開	2 資料を読み、常世の気持ちを考える。	○ 大雪が降る中、旅僧が一夜の宿を求めてきたとき、常世はどう思っただろう。 ・この吹雪で困っているだろう。 ・外で寝ることはできないだろう。 ・寒かっただろう。温めてあげたい。 ◎ 台所から鉢植えを持ってきたとき、常世はどんなことを考えていただろう。 ・これまで大切にしてきたので残念だ。 ・薪になるものはこれしかないので、仕方がない。 ・これで少しでも温まってもらえれば嬉しい。	○ 旅僧の困っている様子を見たときの常世の気持ちを捉えさせる。 ○ 鉢植えを燃やすことを決めた常世の気持ちを話し合うことで、相手を思いやる心について理解を深める。

		<p>補 旅僧が止めたにも関わらず、常世が鉢植えを燃やしたのはなぜか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このいろいろの火では旅僧は十分に体が温まっていないと考えたから。 ・このままでは旅僧は寒くて眠れないと考えたから。 <p>○ 「相手の立場に立って行動する」とはどういうことなのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が望んでいることを考えて行動する。 ・自分がしてもらって嬉しいことをする。 ・自分がもし相手の立場だったらと想像して行動する。 	<p>○ 震えながらも遠慮している旅僧の様子を捉え、もっと温まってもらいたいと考えた常世の行動は「相手の立場に立って行動する」ことであることに気付かせる。</p> <p>○ 相手の様子を慮り、相手のためになることを考え行動することが、思いやりのある行動となることを押さえる。</p>
3	これまでの自分を振り返る。	<p>○ これまでに相手の立場を考えた行動ができたか思い出してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転んでけがをした1年生が、どうしたらよいか困っているようなので、保健室へ連れて行ってあげた。 ・テスト勉強を頑張っている姉のことを考え、気が散ると思い、見たいテレビを我慢した。 	<p>○ これまで思いやりのある行動と思っていたことは、相手の立場をどのように考えた行動だったかを振り返らせる。</p> <p>○ 相手のために思い、時には温かく見守ることも思いやりのある行動であることにも触れる。</p>
終末	4 教師の説話を聞く。		<p>○ 思いやりのある行為を受けて嬉しかった教師の体験談等を話す。</p> <p>○ 「私たちの道徳」(p.62)を範読し余韻をもって終わらせることも考えられる。</p>

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 児童は、日常生活においてごく自然に人を思いやったり、親切にしたりしている。そのことを確認しつつ、さらにどのような状況下でも実践できるように指導していく必要がある。事前にこれまでの生活を振り返り、人を思いやったり親切にしたりした経験を想起させ、自分なりの課題がもてるように働きかけておくことが大切である。
- ・ 思いやりや親切について深く考えさせるために、親切な行為を受けた旅僧の気持ちに共感させていくことも考えられる。
- ・ 思いやりのある行動を自発的に実践するためには、相手の立場に対する感受性を高めるとともに、適切な行為であるかどうかを見極める判断力が必要となってくる。日常生活での問題場面を捉え、どう行動すべきかを、教師も共に考えていくことが大切である。

4 参考資料等

- ・ 「ふるさとの心に学ぼう」(栃木県道徳学習郷土資料集〈小学校高学年・中学校編〉平成12年2月 栃木県教育委員会)より一部改作して再掲載

5 はが路100km徒歩の旅

【資料本文 p.17】

1 資料について

- この資料は、芳賀郡内の1市4町にまたがる100kmの道のりを、4泊5日をかけて歩く「はが路100km徒歩の旅」を素材としている。主人公の優花は、ちひろと同じ班になることを楽しみにしていたが、社交的なちひろは同じ班の子とすぐに仲良くなってしまった。あまりにそっけないちひろの態度に初日から気が重くなる優花であった。4日目の「はが富士」の山登りで、優花はぬかるんだ道に足を滑らせけがをしてしまう。あまりの痛さに山登りをあきらめかけるが、同じ班の人たちやちひろからの温かい声かけや優花のペースに合わせてゆっくり歩いてもらったことで、何とか自分の足で山登りを終えることができた。最終日には、優花のかけ声を合図に、みんなで一斉にゴールする。
- 高学年の段階においては、趣味や嗜好を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向が生まれてくるため、疎外感を感じたり、友達との間で悩んだりすることが今まで以上に見られるようになる。ちひろと一緒にいることで安心感を得ていた優花も、ちひろのそっけない態度や他の友達と仲良く話をするちひろの姿に疎外感を感じ、仲間外れにされているように感じてしまった優花の気持ちに共感させたい。
- 困った時に助けてくれたちひろの温かい言動に真の友情を感じ、少しずつ前向きに頑張ろうとする優花の心の変化を捉えさせたい。

2 展開例

(1) ねらい

友達同士の相互の信頼の下に、協力して学び合う活動を通して、互いに磨き合い高め合うことで真の友情を育てていこうとする態度を育てる。 [2-(3) 真の友情]

とちぎの子どもたちへの教え「人々と助け合う」と関連

(2) 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応 (◎：中心発問)	指導上の留意点
導入	1 「友情」について考える。	◎ あなたにとって「大切な友達」とは、どういう人か。 ・一緒にいて楽しい人。 ・何でも話せる人。 ・つらいときに励ましてくれる人。	◎ ねらいとする道徳的価値への意識付けや方向付けをする。
展開	2 資料を読み、優花の気持ちを考える。	◎ 優花の心が重く沈んでいったのはなぜだろう。 ・ちひろと同じ班になれると思っていたのに別々の班になってしまったから。 ・ちひろの反応があまりにあっさりしていたから。 ・ちひろが、同じ班の友達と楽しそうに話をしていたから。 ・自分が仲間外れになったような感じがしたから。	◎ ちひろと一緒にいたいと願う内向的な優花と、誰とでもすぐに仲良くなれる外向的なちひろとの違いを押さえ、初日から気持ちが沈む優花の気持ちを捉えさせる。

		<p>○ 山道で転んだとき、すぐにちひろや他の人がかけつけてくれた様子を見て、優花はどんなことを思ったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちひろちゃん、心配してくれたんだ。 ・みんな心配してくれてありがとう。 ・くじけないで、最後まで頑張ろう。 <p>◎ 「自分一人の力だけではゴールできなかったよ。ちひろちゃんありがとう。」と言った優花は、どんなことに気付いたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日まで頑張れたのは、いろいろな人たちの心の支えがあったからだ。 ・いつも一緒にいなくても、ちひろは本当の友達だ。 ・つらいときに励ましたり助けてくれたりする友達が、本当の友達だ。 	<p>○ 気落ちしながら悪天候で条件の悪い中を歩く優花のつらさに共感させた上で、助けてくれた人々の優しさや思いやりに気付かせる。</p> <p>○ ちひろだけでなく、班のリーダーやメンバーたちの励ましや助けが大きなエネルギーになったこと、そしてちひろとの絆がより一層深まったことに気付かせる。</p>
	3 これまでの自分を振り返る。	<p>○ これまでの自分自身と、友達や仲間との関わりについて、振り返ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っているときやつらいときに、一緒に考え、励ましてくれた。 ・友達が失敗したときに、つい怒ってしまった。 	<p>○ これまでの自分と友達との関わりについて、振り返ることができるように、書く時間を十分に確保し真の友情について考えさせる。</p>
終末	4 教師の説話を聞く。		<p>○ 互いに磨き合い、高め合えるような友達の大切さについて、教師の体験談等を紹介する。</p>

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 指導に当たっては、高学年の発達段階を十分踏まえながら、友情についてじっくりと考えさせ、互いに磨き合い、高め合えるような真の友情を育てていくことが大切であることに気付かせたい。
- ・ 終末で「私たちの道徳」(p.72~74)を活用し、書き込み部分に記入させることも考えられる。

4 参考資料等

- ・ 協力者 「はが路100km徒歩の旅」 実行委員長 堀内一浩氏
- ・ 「はが路100km徒歩の旅」 ホームページ <http://www.geocities.jp/toho100haga/>
- ・ 写真提供 「はが路100km徒歩の旅」 実行委員会

6 ポイ捨てされたゴミ

【資料本文 p.21】

1 資料について

- ・ この資料は、自然豊かな奥日光で、学校行事として熱心に清掃活動を行う児童の話である。
- ・ 気持ちよく清掃活動に取り組む主人公の陽菜は、たばこの吸い殻を目の前で捨てる大人に出会う。その時の批判的な気持ちに共感させながら、ささいなことで公共の場を汚すことになった主人公の気持ちを考えさせることを通して、公德心をもって法やきまりを守り、自分に課せられた義務をしっかりと果たそうとする心情を育てたい。

2 展開例

(1) ねらい

社会生活を営む上で必要とされるモラルを重んじ、人々に迷惑をかけることのないよう
に行動しようとする心情を育てる。 [4－(1) 公德心・規則の尊重・権利・義務]

とちぎの子どもたちへの教え「法やきまりの意義を理解する」と関連

(2) 展開 (ページ右)

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 美しい奥日光と、落ちているゴミとの対比ができるように、奥日光の自然や美しい風景などが分かる資料等を用意しておく。
- ・ 遠足などで、実際に奥日光を訪れる行事等がある際には、関連を図りたい。
- ・ 導入で、「私たちの道徳」(p.120～121)を活用し、掲載されている写真資料から身の周り
にあるきまりに気付かせる方法もある。
- ・ 観光地だけではなく、自分たちの身近なところでも起こりうることとして捉えさせたい。
- ・ 中心発問ではペアやグループでの意見の交流を図り、多様な感じ方や考え方を引き出し
ながら価値理解や他者理解を深めていきたい。

4 参考資料等

- ・ パンフレット「ふれて まなぶ 美しい自然」(財団法人 自然公園財団 日光湯元ビジ
ターセンター)
- ・ 協力、写真提供 栃木県立日光自然博物館
- ・ 協力者 自然公園財団 日光湯元ビジターセンター日光支部 石井雄也氏
- ・ 写真 中禅寺湖畔から撮影

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応 (◎：中心発問)	指導上の留意点
導入	1 きまりやマナーは何のためにあるのかについて考える。	○ 自分たちの周りにはどのようなきまりやマナーがあるだろう。そして、それらはなぜあるのだろう。 ・廊下は走らない。 ・交通ルールを守る。 ・みんなが困らないで気持ちよく過ごせるようにするためにきまりがある。	○ 自分たちの身の周りがあるきまりについて振り返らせることで、価値への方向付けをする。
展開	2 資料を読み、陽菜の気持ちを考える。	○ 顔見知りのおじさんやおばさん、観光客に声をかけられたときの陽菜は、どんな気持ちだっただろう。 ・気持ちがいいな。 ・もっとゴミ拾いを頑張ろう。 ○ たまらずにおじさんへ声をかけた陽菜は、どんな気持ちだったのだろう。 ・どうしてここに捨てちゃうの。信じられない。なんて自分勝手なのだろう。 ・私たちがゴミ拾いをしているのが分からないの。許せない。 ◎ ポケットから落としてしまった包み紙を見て、陽菜はどんなことに気付いたのだろう。 ・恥ずかしい。強く言っちゃったけれどさっきのおじさんと同じだわ。 ・知らない間に落としていた。今までにもあったのかな。気を付けないといけないな。	○ 周囲の人に声をかけられ、公共の場の環境美化に役立っていると感じている陽菜の気持ちに共感させる。 ○ 自分勝手に公共の場を汚すおじさんに対する、陽菜の批判的な心情に迫れるようにする。 ○ 自分の行為を振り返る陽菜の心情に共感させたい。 ○ 「どうして陽菜の目は落とした包み紙を捉えたまま動かなかったのだろう」の補助発問により、結果として自分でも公共の場を汚す行為をしてしまった陽菜の心の動揺の大きさに気付かせる。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ これまでの生活から、みんなが使う場所で人に迷惑をかけないように行動できたこと、行動できなかったことを思い出してみよう。	○ 自分の生活経験を想起して、公共の場で人に迷惑をかけないように行動できたことやできなかったこと、その際の気持ちを具体的に書くことにより、自分自身を見つめられるようにする。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ 教師の体験談などの話をする。

7 もう一つのワールドカップを知って

【資料本文 p.25】

1 資料について

- ・ この資料は、さくら市の鬼怒川河川敷にある鬼怒川運動公園で行われた知的障害者サッカー日本代表の強化合宿における練習試合を素材としている。
- ・ 主人公の翼は、先輩から試合観戦に誘われたが、障害者のチームであることを知り、高いレベルでのプレーを期待しなかった。また、地元の強豪高校生が相手なので、歯が立たないと思っていた。しかし、翼は障害者チームの戦い方を見て、友人の武に対し、差別したり、排除したりする気持ちをもっていったことに気付いていく。
- ・ 指導に当たっては、差別や偏見の不当性に気付かせるとともに、物事に対する公正で公平な態度を養いたい。
- ・ 大会出場に向け、同連盟が合宿地を探していたところ、さくら市出身で市観光PR大使でもあるJ2栃木SCゼネラルマネージャーの上野佳昭氏が、同公園を紹介した。また、さくら市は社会福祉事業を推進しており、練習環境の整備や宿泊先の紹介などでもバックアップした。

2 展開例

(1) ねらい

だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正・公平に接していこうとする態度を養う。

〔4－(2) 公正・公平〕

(2) 展開 (ページ右)

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 展開前段で、「武、行ってみるか。」という監督の声を聞いたときと練習試合を見ているときの間で変化する翼の気持ちを問い、人間理解（道徳的価値は大切であるが、実現は難しいこと）を深めたい。
- ・ 中心発問では、なぜ翼が「明日は、久しぶりに武とボールをけろう。」と思ったのか考える場面を設定し、価値理解（道徳的価値は大切であること）や他者理解（道徳的価値の実現に向けては多様な感じ方・考え方があること）を深めていきたい。
- ・ 偏見がいじめにつながることもあるので、終末は、「私たちの道徳」(p.132～135)を活用することも考えられる。
- ・ 人権教育の直接的指導との関連を図ると効果的である。

4 参考資料等

- ・ 月刊タウン情報「もんみや」2014年（平成26年）5月25日発行
- ・ 日本知的障がい者サッカー連盟ホームページ <http://jffid.com/>
- ・ 協力者 日本知的障がい者サッカー連盟 堀江泰氏
- ・ 資料本文p.25の写真は、「もう一つのワールドカップ 2014ブラジル大会」の大会旗で、写真の中のINASは、「知的な障害の人のための国際的スポーツ同盟」主催の世界的な大会の意味を表す。

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応 (◎：中心発問)	指導上の留意点
導入	1 どんなことで「自分と友達は違う」と思うか考える。	○ 「自分と友達は違う」と思うのはどんなことだろう。 ・顔（外見） ・得意なことや不得意なこと ・性格（長所・短所） ・考え方や価値観	○ 日常生活の中で思うことを素直に考えさせる。 ○ 個人名は出さないように配慮する。
展開	2 資料を読み、翼の気持ちを考える。	○ 試合の帰り道、翼はどんな気持ちだっただろう。 ・試合に負けたのに、にこにこ話しかけてくるなんて信じられない。 ・武が出なければ試合に勝ったかもしれない。 ○ 立ち上がって、選手全員に精一杯拍手をしたとき、翼はどんな気持ちだっただろう。 ・絶対負けるに違いないと思っていたのに信じられない。 ・本当にこの人たちに障害があるのか。 ・すごい。サッカーを楽しんでいる。 ◎ なぜ、翼は「明日は武とボールをけろう。」と思ったのだろう。 ・自分はいつの間にか武を心の中で仲間外れにしていたことに気付いたから。 ・武も、自分と同じようにサッカーが大好きなんだということを思い出したから。	○ 翼が武を快く思わない気持ちをもつようになった過程や理由についても考えさせるようにする。 ○ 翼の、武を差別したり排除したりする気持ちが強くなっていることに気付かせる。 ○ 翼の心の中に、武を見下す気持ちがあることに気付かせる。 ○ 試合を見るまで、翼は偏見をもっていたことを押さえる。 ○ 翼が、試合を見ながら今までの自分の気持ちを振り返り、考え方や人に対する見方が変化してきたことに気付かせる。 ○ 翼は、武と違う部分を否定的に見ていたが、同じ部分にも目を向けるようになり、公正に接していくことの大切さに気付いたことを押さえる。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ これまでの生活で、偏ったものの見方や考え方をしたことや、違いを受け入れたことがあったか振り返ろう。 ・自分と違う友達の考えを認めながら、グループの話し合いを進めることができた。 ・友達の考えた作戦でサッカーをしたらチーム全体の動きがよくなった。	○ 自分の今までの行動や考え方を具体的に書かせるように、時間を十分確保する。 ○ 個人が特定されないように配慮する。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ 教師の体験談などの話をする。

8 お囃子会での活動を通して

【資料本文 p.29】

1 資料について

- ・ この資料は、2013年（平成25年）に行われた第36回栃木県少年の主張発表河宇地区大会での中学生の発表を基にして作成したものである。
- ・ 5人で一組のチームとなって演奏をするお囃子会に入った「私」は、練習を続けるにつれて、日に日に上達していく。中学生になり、楽器の中で最も難しいとされる篠笛を任せられるようになった。「私」の気持ちについて考えていくことによって、自分の役割を果たすとともに、リーダーとしてしっかりと下級生のメンバーをまとめる責任があることに気付かせたい。
- ・ この資料を通して、自分が属する様々な集団における役割や責任を考え果たしていくことの大切さにも気付かせていけるようにしたい。

2 展開例

(1) ねらい

身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たそうとする心情を育てる。

[4－(3) 役割と責任の自覚]

とちぎの子どもたちへの教え「集団の中で自分の役割を果たす」と関連

(2) 展開（ページ右）

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 導入では、本資料に関連する締太鼓や和太鼓、鉦、篠笛、実際のお祭りの様子を提示することで、児童にお囃子への興味・関心をもたせるとともに、本資料の内容を的確に把握することができるような支援をしたい。
- ・ 展開後段では、ワークシート等を活用して自分の考えをまとめたり、友達の発表を通して互いの考えを交流したりすることで、これまでの自分の学習場面や生活場面を振り返り、価値の内面化を図ることを目指した指導方法の工夫を行うことも考えられる。また、「私たちの道徳」(p.144～145)を活用し、書き込み部分に記入することも考えられる。
- ・ 終末では、「集団での役割」や「責任を果たすこと」に関する説話をすることで、児童の心情に訴えたり深い感銘を与えたりすることができるようにしたい。
- ・ 郷土を愛することやお囃子という伝統や文化を育ててきた先人の努力に着目することで、内容項目4－(7)郷土愛で扱うことも考えられる。

4 参考資料等

- ・ 第36回栃木県少年の主張発表河宇地区大会記念文集「地域に笑顔を」2013年

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応 (◎：中心発問)	指導上の留意点
導入	1 「お囃子」という言葉を聞いたときのイメージをもつ。	○ 「お囃子」という言葉を聞いて、どんなイメージをもつだろう。 ・太鼓の音 ・夏祭り	○ お囃子のイメージをもつことで、資料への方向付けをする。
展開	2 資料を読み、「私」の気持ちを考える。	○ 篠笛を任された「私」は、どんな気持ちで練習に取り組んだのだろう。 ・難しいからたくさんの練習が必要だ。 ・しっかりと自分の役割を果たしたい。 ・自分の役割や責任を果たすとともに、しっかりとメンバーをまとめたい。 ◎ お囃子と吹奏楽の練習が重なったとき「私」はどんな気持ちだっただろう。 ・もっと吹奏楽の練習をしたい。 ・吹奏楽の練習も大切だし、お囃子の練習も大切だ。 ・部長の励ましがうれしかった。 ・お囃子のメンバーの小学生たちが待っているから、行かなければならない。 ・お囃子のリーダーとしての責任を果たさなければならない。 ○ 東京の神社のお祭りで、自分を奮い立たせようとしたときの「私」は、どんな気持ちだっただろう。 ・4人の小学生たちの真剣な顔を見て、自分もしっかりしなくてははいけない。 ・下級生のよきお手本とならなくてははいけない。 ・今日までお囃子の練習を頑張ってきたのだから、このお祭りでも、最後までしっかりと自分の役割やリーダーとしての責任を果たしたい。	○ 4つの楽器の中で最も難しい篠笛の練習に励みながらリーダーとしてメンバーをまとめようとしている「私」の気持ちに共感させる。 ○ お囃子と吹奏楽部での二つの役割がある私が両者の間で揺れ動く気持ちに共感することができるようになる。 ○ 4人の小学生たちが自分を待っている描写を通して胸が熱くなった様子から、メンバーをまとめるリーダーとしての責任があることに気付かせる。 ○ お囃子会における、自分の役割を改めて自覚した「私」の気持ちを捉えさせる。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ 今、あなたはどんな集団に所属しているか。それらの集団の中で、役割や責任を果たせたことや逆に果たせなかったことはあるか。	○ 自分が所属していることを意識してこなかった集団についても目を向けられるようにする。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ 「役割」や「責任を果たすこと」に関する説話をする。

9 須賀神社の落ち葉はき

【資料本文 p.33】

1 資料について

- この資料は、小山市立小山第二小学校の全児童が、近隣する須賀神社の参道の落ち葉はきをするボランティア活動を素材としたものである。
- 6年生である主人公の広は、長い参道の落ち葉はきに気が進まなかったが、下級生の面倒をみていく中で、落ち葉はきをする前の自分とは違う気持ちになっていたことに気付く。その広の姿から、自分が活動する集団における役割と責任について考えさせたい。

2 展開例

(1) ねらい

身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たそうとする態度を育てる。 [4 - (3) 役割と責任の自覚]

とちぎの子どもたちへの教え「集団の中で自分の役割を果たす」と関連

(2) 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応 (◎：中心発問)	指導上の留意点
導入	1 自分が属する集団について考え、様々な集団の中で生活していることについて意識を高める。	○ 自分はどんな集団の中で生活しているかを考えてみよう。 ・係 ・給食当番 ・委員会 ・クラブ ・縦割り班 ・登校班 ・クラス ・学校 ・家族 ・地域	○ 児童から出された考えをまとめて板書(掲示)することで、自分が集団に属して生活していることを再確認し、価値の方向付けをする。
展開	2 資料を読み、広の気持ちを考える。	○ 「何だか、気が進まないなあ。何でぼくたちが……。」と言ったとき、広はどんなことを考えていただろう。 ・面倒だ。 ・近所の人だけでやればいいのに。 ・縦割り班でやるのはいやだ。 ・下級生の面倒をみるのは疲れる。 ・できることならやりたくない。 ○ 「ごめんね。ぼくが班長なのに……。」と言った後、広はどんなことを考えていただろう。 ・あの時、ぼくが持って行けばよかった。 ・班のみんなに迷惑をかけてしまい、申し訳ない。 ・班長なのだから、もっとしっかりしなくちゃ。 ・下級生のお手本になるよう、自分から進んで働こう。	○ 落ち葉はきについて、面倒だ、やりたくないと思っている広の気持ちを考えさせ、誰もがもっているであろう心の弱さについて共感的に捉えさせる。 ○ 下級生が転んでしまったことに対する責任や、班長としての自分の役割を自覚し始める広の気持ちを考えさせる。 ○ 「言葉が続かなかった」広の思いを十分に感じ取らせる。

		<p>○ 3年生から「お兄ちゃんと同じ班でよかった。」と言われたとき、広はどんな気持ちだっただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉はきをやってよかったな。 ・頑張った甲斐があった。 ・大変だけど、縦割り班でやってよかったな。 ・班長として、頼りにされて嬉しいな。 ・班長としての役割が果たせた。 ・自分にできることをもっと一生懸命やろう。 <p>◎ 「ぼく、校長先生の言葉の答えを見つけたような気がするんだ。」と言ったとき、広はどんな答えを見つけたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班長としての役割を考えることができるように、落ち葉はきをするんじゃないかな。 ・6年生として、下級生をリードしていくことが必要だ。 ・6年生として、下級生のお手本になることが大切だ。 	<p>○ 下級生の面倒をみたり、班長として進んで行動したりすることの喜びを感じ取らせる。</p> <p>○ 縦割り班の班長としての役割を果たしていく中で得られた充実感と責任感の両面について考えさせる。</p> <p>○ 校長先生の言葉に対する答えとして、広の心の内に芽生えた、集団の中での役割や責任についての思いを、児童自身の言葉で考えさせる。</p> <p>○ これからも自分にできることを考えて実行していこうとする、広の前向きな気持ちについても考えさせる。</p>
	3 これまでの自分を振り返る。	<p>○ 自分が所属する集団の中で、自分の役割や責任を果たしていると思うことはあるか。また、責任を果たせなかったと思うことはあるか。</p>	<p>○ 「私たちの道徳」(p.142～143)を活用し、記入させる。</p> <p>○ 導入で考えた身近な集団についてももう一度見直し、それぞれ自分にどんな役割があるかを考えさせる。</p>
終末	4 教師の説話を聞く。		<p>○ 日常生活の中で、集団の中の一員として責任をもって自分の役割を果たしている児童(場面)を紹介する。</p>

3 活用上の留意点・工夫

- ・ この資料は、主人公である広が最上級生としての役割を自覚し、責任を果たそうとする内容であるが、展開後段で、自分が活動する様々な集団における取組を振り返り、集団生活向上のために、役割や責任を果たした経験を想起させたい。
- ・ 児童の実態により、中心発問を展開前段の三つ目の発問にし、四つ目の発問は価値理解を図るための発問にすることも考えられる。
- ・ 終末で、集団の中で自分が果たすべき役割があること、そう考えて活動してきた場面があることを知らせ、自分から進んで活動する意欲を高めていく。
- ・ 最上級生として、様々な活動に取り組んでいる6年生での扱いが望ましい。

10 わたしの生きがい

【資料本文 p.37】

1 資料について

- この時期においては、勤労を尊ぶ心を育てながら、働くことの意義を理解して、社会に役立つことができるように指導する必要がある。つまり、勤労が社会生活を支えるものであることを理解し、ボランティア活動など公共のために役立つ活動に目を向け、積極的に取り組めるようにすることが大切である。また、そのことから得られる喜びを基に、社会に奉仕し、公共のために役に立とうとする心構えを育てることが望まれる。
- この資料は、思川駅の掃除と花壇の整備を30年以上続けていた一住民のボランティア活動に触れることにより、公共のために役立とうとする心を育むとともに、公共のために役に立てる喜びに気付くことをねらいとしている。鶴見進氏は、思川駅は自分たちの生活にとって、なくてはならないものという強い思いから、活動を続けてきた。このような鶴見氏の思いと行為に共感しながら、ねらいに迫れるようにしたい。
- この資料は郷土愛や役割・責任、公德心など関連する道徳的価値が複数含まれているが、ここでは、勤労奉仕をねらいとして指導案を作成した。働くことは「社会のため」「みんなのため」であると同時に「自分のため」「自分の喜び」でもあることに気付かせたい。

2 展開例

(1) ねらい

働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立とうとする態度を育てる。

〔4－（4）勤労・社会奉仕〕

(2) 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応 (◎：中心発問)	指導上の留意点
導入	1 思川駅の写真を見て、どのような場所であるか考える。	○ 思川駅（地域の公共の場）はどのような場所だろう。 ・たくさんの人が利用している。 ・なくてはならない場所である。	○ 地域の公共の場などを想起できるように写真等の資料を工夫する。
展開	2 資料を読み、進おじいちゃんの様子を考へる。	○ 進おじいちゃんは、どんな気持ちで掃除や花壇の整備をしていたのだろう。 ・大切な場所である思川駅をきれいにしたかった。 ・みんなに思川駅を気持ちよく利用してもらいたかった。 ・思川駅を利用する人たちが花壇の花を見て、元気な気持ちになってほしいと思っていた。 ◎ 進おじいちゃんが、掃除をやめたいと思ったことがないのはなぜだろう。 ・みんなに喜んでもらえることが嬉しかった。 ・思川駅をきれいにするのが嬉しかった。	○ 「進さんの駅みたい。」と言われて嬉しそうにほほえむ姿から、進さんが思川駅を大切に思っていることを押さえる。 ○ 進さんが思川駅を利用するみんなのために掃除や花壇の整備をしていたことに気付かせる。 ○ 「みんなのためにという思いだけで、32年間も、思川駅の掃除や花壇の整備が続けられたのだろうか。」などの補助発問から自分の喜びや満足感が大きな原動力となっていたことに気付かせる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・掃除や花壇の整備が楽しかった。 ・掃除を続けることに誇りを感じていた。 <p>○ 進おじいちゃんは誰のためにどんな思いから掃除や花壇の整備をしていたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなが気持ちよく駅を使えるようにしたいという思い」と「みんなのために働ける自分でありたいという思い」から。 ・「自分やみんなの大切な場所をきれいにしたいという思い」と「きれいにし続けている自分の誇り」から。 	<p>○ 進さんの「この仕事は私の生きがいなんです。」という言葉に着目させ、「みんなのために働くこと」は、同時に「自分の喜び」でもあることを押さえ、働くためにはどちらも大切であることに気付かせる。</p>
	3 これまでの自分を振り返る。	<p>○ みんなのために取り組んだこととその時の気持ちを思い出してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河原の清掃をして、きれいになったのを見て気持ちがよかった。 ・1年生のお世話をして、1年生が自分でできるようになったのを見て、取り組んだ甲斐があったと思った。 	<p>○ 導入時に使った写真やみんなの役に立つことを喜びと感じた児童の感想などから、子どもたちの経験と思いを引き出せるようにする。</p>
終末	4 教師の説話を聞く。		<p>○ 同年代の子どもが自ら楽しんでボランティア活動に取り組んでいる話などを紹介する。</p>

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 事前指導として、ボランティア活動（共通体験）を設定し、体験後「人のために働く」ということについて自分の思いをまとめておくことも効果的である。
- ・ 共通体験後の自分の思いや課題を生かして、主人公（進さん）の行為について深く考えられるよう支援したい。

4 参考資料等

- ・ 「ふるさとの心に学ぼう」（栃木県道徳学習郷土資料集〈小学校高学年・中学校編〉平成12年2月 栃木県教育委員会）より一部改作して再掲載

11 いつもふわふわ魔法のパン

【資料本文 p.41】

1 資料について

- ・ この資料は、パンの缶詰を開発し、それを被災地へ無償配布するという社会貢献活動を行っているパン屋の秋元義彦さんを題材にした資料である。
- ・ 秋元さんは、阪神・淡路大震災で被災地にパンを送ったことをきっかけに、保存のきくパンの開発に取り組む。試行錯誤の末、3年間保存可能なパンの缶詰を開発する。そして、パンの缶詰を被災地へ無償配布する活動を始める。やがて日本国内から海外へと活動場所を広げていき、宇宙食にも採用される。東日本大震災後、無償で大量のパンの缶詰を被災地に配布したため、会社の経営が危機に陥る場面もあったが、支援者の後押しで乗り越え、現在も活動を続けている。
- ・ 秋元さんの活動や思いを考えていくことを通して、社会に奉仕する喜びを知り、世の中のために役に立とうとする心情を育てたい。

2 展開例

(1) ねらい

社会に奉仕する喜びを知り、世の中のために役に立とうとする心情を育てる。

〔4－（4）勤労・社会奉仕〕

(2) 展開（ページ右）

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 阪神・淡路大震災について、被害の内容が分かるような写真を用意しておくとうい。
- ・ 秋元さんが、パン屋という立場で被災者の役に立てることを考えたことに着目すると内容項目4－（3）役割・責任で扱うことも考えられる。
- ・ 終末でねらいとする価値に関する教師の説話を行うほかに、以下の資料の紹介も考えられる。

世界にパンを届けよう「救缶鳥プロジェクト」

「救缶鳥プロジェクト」とは、秋元さんが2009年に始めた「非常食を備えることで、世界の飢餓救済の活動に参加できる。」というプロジェクトです。

3年間保存可能なパン「救缶鳥」を購入してくださった家庭や学校、企業、自治体などは、3年の賞味期限のうち、2年間は有事・震災時用の非常食として「救缶鳥」を備蓄します。そして、備蓄から2年が経過し、賞味期限が残り1年の間に、日本中から回収・輸送され、海外の被災地や飢餓に苦しむ国々へ義援物資として届けられます。

普通、備蓄用非常食は賞味期限が過ぎると処分されます。購入先としても廃棄処分にかかるお金は悩みの種となっています。「取引先から商品を下取りし、NGOと協力して海外の被災地や飢餓に苦しむ地域に無償提供する。パンも無駄にならず国際貢献もできる。」このプロジェクトにより、世界中に元気と笑顔が広がっています。

「私はね、ただのパン屋のオヤジなんです。パン屋ができる社会貢献、国際貢献はと考えるとこうした形になったということです。」穏やかに笑う秋元さんの目の先には、さらなる目標が見据えられているようです。

4 参考資料等

- ・ (株) パン・アキモトホームページ <http://www.panakimoto.com/>
- ・ TBS番組「夢の扉」2010年（平成22年）4月11日放送
- ・ 写真提供 (株) パン・アキモト
防災システム研究所 <http://www.bo-sai.co.jp/sub6.html>
日本大学文理学部地球システム科学科ホームページ（地盤災害・斜面災害のページ）
<http://www.geo.chs.nihon-u.ac.jp/saigai/foundation-slope.html>

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応 (◎：中心発問)	指導上の留意点
導入	1 阪神・淡路大震災の写真を見て、大きな地震が起きた後の生活で困ることについて考える。	○ 大きな地震が起こると、その後の生活で困ることはどんなことだろう。 ・電気、ガス、水道などが止まる。 ・食べ物が不足する。	○ 震災の被害が分かる写真等を提示してもよい。
展開	2 資料を読み、秋元さんの気持ちを考える。	○ 「ふわふわのまま、長く保存できるパンを作ってくれよ。」と言われたときの秋元さんはどんな気持ちだっただろう。 ・被災者に本当に役に立つパンを自分が開発しよう。 ・みんなが喜んでくれるようなパン作りにチャレンジしよう。 ・自分にそんなパンができるかな。 ○ 世界各国の被災地へパンの缶詰を送り続けているときの秋元さんは、どんな気持ちだっただろう。 ・パンの缶詰が多くの人の役に立ってくれるといいな。 ・缶詰のパンを食べて、多くの人が笑顔になってくれるといいな。 ○ 多額のお金やメッセージが送られてきたときの秋元さんは、どんな気持ちだっただろう。 ・支援をあきらめようと思ったけれど、これで続けられる。よかった。 ・こんなに多くの人たちが支援してくれて、ありがたい。 ・送ってくれた人の気持ちに応えよう。 ◎ 涙を流しながら「おいしい」とパンを食べてくれたおばあちゃんを見たとき、秋元さんはどんな気持ちだっただろう。 ・こんなに喜んでくれて本当に嬉しい。これまでやってきてよかった。 ・自分のやってきたことは間違いじゃなかったんだ。 ・パン屋として世の中のために役に立つことができてよかった。これからは頑張ってやっていこう。	○ 阪神・淡路大震災での経験と知人の言葉がきっかけで、世の中の役に立つことに挑戦しようと思ったことを確認する。 ○ 人の役に立っているという気持ちが、秋元さんの原動力になっていることに気付かせる。 ○ 多くの人の後押しで、支援を打ち切ろうという気持ちから、支援を続けようという気持ちに変わったことを押さえる。 ○ 社会に奉仕する喜びを知り、世の中のために役に立とうとする秋元さんの気持ちを押しさえる。
	3 これまでの自分を振り返る。	○ これまでの生活で、自分から誰かの役に立つことができた経験や役に立ちたいと思った経験を思い出してみよう。	○ 児童の取り組んだボランティア活動の写真を提示するなど経験を想起させやすくする。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ 活用上の留意点・工夫を参照する。 ○ 「私たちの道徳」(p.154)を範読し、余韻をもって授業を終わらせてもよい。

1 資料について

- ・ 自分の育った郷土は、自己の形成に大きな役割を果たすとともに、一生にわたって大きな精神的な支えとなるものである。児童自身が、郷土に残る伝統的な行事や文化遺産を知り、それを大切に継承し発展させていく担い手の一人であるという自覚をもち、郷土に対し主体的に関わっていこうとする心情を育てる必要がある。
- ・ この資料の主人公である明は、江戸時代から受け継がれている鹿沼の彫刻屋台に誇りをもち秋祭りを成功させようと頑張っている父親が、その準備のために野球の応援に来てくれないことに不満をもっている。しかし、実際に祭りを見に行き、そのすばらしさに感動したことで考え方が変わっていく。明の気持ちに共感させながら、郷土の伝統的な行事や文化遺産を継承していくためには、それに誇りをもち、たくさんの人たちと協力し合いながら主体的に関わっていくことが大切であるということに気付かせたい。

2 展開例

(1) ねらい

自分たちの郷土に残る伝統的な行事や文化遺産に誇りをもち、それを支える人の努力を知り、自分たちもそれを継承していこうとする心情を育てる。 [4 - (7) 郷土愛]

(2) 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応 (◎：中心発問 ㊦：補助発問)	指導上の留意点
導入	1 自分たちの郷土にはどのような伝統的な行事や文化遺産があるか発表する。	○ 自分たちの郷土には、どのような伝統的な行事や文化遺産があるだろう。 ・ 毎年、近くの神社で祭りがある。 ・ 地域に伝わる獅子舞がある。 ・ 毎年、桜祭りが行われている。	○ 郷土に伝わる伝統的な行事等に目を向けさせ、関心を高めるとともに、どのようなものなのかも発表させる。
展開	2 資料を読み、明の気持ちを考える。	○ 父に試合の応援に行けないと言われたとき、どのような気持ちだっただろう。 ・ お父さんは、祭りのことばかり考えている。 ・ 祭りの準備なんて、誰かがやれば いいじゃないか。 ○ 明は彫刻屋台やぶっつけの様子を見て、どう思っただろう。 ・ 彫刻屋台って、こんなにきれいだったんだ。 ・ おはやして、こんなに迫力があつたんだ。 ・ 迫力があって、なんてすばらしい祭りなんだ。	○ 野球の試合に父が来てくれることを楽しみにしていた明の気持ちに共感させる。 ○ 明が祭りにあまり関心をもっていないことに気付かせる。 ○ 父を許せない気持ちのまま、出店を楽しみに出かけた明が、祭りそのものに惹きつけられていく様子に着目させる。

		<p>◎ 明は父や町の人たちの祭りに対する思いを、どのように感じたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんや町の人たちはこの祭りを心から大切に思っていたんだ。 ・みんなが一体となって、祭りを盛り上げているんだ。 ・お父さんや町の人たちはこのすばらしい祭りを守っていきたくて思っていたんだ。 <p>㊦ 急に自分がほめられたように嬉しくなったのはなぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの町にこんなにすごい祭りがあったんだ。 	<p>○ 祭りの父の姿を通し、伝統的な祭りを守っていくためには、祭りを支える人々の存在が欠かせないことに気付かせる。</p> <p>○ 明がこの祭りを「自分の祭り」と感じ、誇りをもち始めたことに気付かせる。</p> <p>○ 「来年はぼくも参加しようかな」と思い始めたのはなぜか。」などの発問により、地域に根付いたこの祭りを明が引き継ぎたいと思い始めたことに気付かせる。</p>
3	これまでの自分を振り返る。	<p>○ 地域の伝統的な行事等に参加したときの気持ちを思い出して書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、父と一緒に祭りで御輿を担いでいるが、みんなで力を合わせることが楽しい。 ・毎年地域の祭りに出かけているが、にぎやかさや出店が楽しみで、あまり祭りを見ていなかった。 	<p>○ 導入時の郷土の行事等に触れ、具体的な場面を想起できるようにする。</p> <p>○ 「祭り等を支えている人々とその人たちの思いを知っているか。」などを問い、郷土の行事を守っている人々の存在に気付かせる。</p>
終末	4 教師の説話を聞く。		<p>○ 地域の伝統的な行事や文化遺産等を継承している人の話をする。</p>

3 活用上の留意点・工夫

- ・ 事前に、郷土の伝統的な行事や文化遺産に対する児童の意識を調査し、その結果を導入や展開後段で使用方法もある。
- ・ 郷土の伝統的な行事や文化遺産を紹介した写真やDVDを活用するとイメージをもたせやすくなる。
- ・ 国際理解教育における自国文化の理解に関する活動と関連させた指導が考えられる。
- ・ 内容項目4－(5) 家族愛をねらいとする活用も考えられる。
- ・ 地域の伝統的な行事を継承している人をゲストティーチャーとして招き、終末で話をしただくことも効果的である。
- ・ 終末で、「私たちの道徳」(p.164)を読む方法もある。

4 参考資料等

- ・ 「ふるさとの心に学ぼう」(栃木県道徳学習郷土資料集〈小学校高学年・中学校編〉平成12年2月 栃木県教育委員会)より一部改作して再掲載

参考資料

とちぎの子どもたちへの教え

～人として、してはならないこと、すべきこと～

平成24年1月 栃木県教育委員会

教育基本法において教育の目的として人格の完成が示されています。人格の完成を目指すということは、児童生徒が自由な意思と責任をもって行動し、自己実現を図るとともに、社会の中で他者と関わりながら生きていけるようにすること、即ち、一人一人の社会的自立を目指して一步一步育てていくことです。こうした社会的自立の基盤としての道徳性を養うことを目的とする教育活動が道徳教育です。

各学校ではこれまで、道徳教育に力を入れてきているところですが、規範意識の希薄化や責任感の欠如など、道徳性が十分身に付いていない子どもも見られる状況があります。その背景としては、子どもたちに道徳の時間で深めるもと（素地）が備わっていないことが考えられます。

このような状況を踏まえ、県教育委員会では、「人として、してはならないこと、すべきこと」を「とちぎの子どもたちへの教え」として示すこととしました。これらは、今回の学習指導要領に示された各学年段階での配慮すべき重点を踏まえ、子どもたちの社会的自立に向けて、発達段階に応じて重点化したものであり、学校や社会で生活する上で、ぜひ身に付けてほしい事項です。

先生方には、この「とちぎの子どもたちへの教え」を基に、日常的な生活場面等を含むあらゆる教育活動の中で、繰り返し「だめなものはだめと教える」、あるいは「教えるべきことはしっかりと教える」ことにより、道徳的行為が子どもたちの内面から自発的に現れるよう道徳性を育てていただくために、このリーフレットを作成しました。



とちまるくん

とちぎの子どもたちへの教え ～人としてしてはならないこと、すべきこと～

- 各学校では、児童生徒、学校及び地域の実態を考慮し、適宜、事項を追加するなどして、指導を行うことが重要です。
- 家庭や地域社会においても積極的に「教える」ことが効果的であり、学校と家庭や地域社会とが連携を図りながら推進していくことも大切です。

中学校

自他の生命を尊重し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、法やきまりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすること

法やきまりの理解を深める



小学校

高学年

法やきまりの意義を理解すること、相手の立場を理解し、支え合う態度を身に付けること、集団における役割と責任を果たすこと、国家・社会の一員としての自覚をもつこと

法やきまりの意義を理解する



小学校

中学年

集団や社会のきまを守り、身近な人々と協力し助け合う態度を身に付けること

約束やきまを守る



小学校

低学年

あいさつなどの基本的な生活習慣、社会生活上のきまを身に付け、善悪を判断し、人間としてしてはならないことをしないこと

あいさつをする



【推進に当たっての留意点】

- 学校生活全体で、機会を捉えて教える。
- 学校全体で共通理解を図り、同一歩調を進める。
- 「分かっているはず」と思い込まない。
- 家庭や地域社会への協力を呼びかける。

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行われ、 そこで道徳性が養われます

⇒ 「とちぎの子どもたちへの教え」は、道徳教育の一環として、
学校の教育活動全体で、意図的、計画的に、繰り返し指導していきます

どんな場面で教えるの？



「とちぎの子どもたちへの教え」は、これまでも学校の教育活動の様々な場面で指導してきました。

今後は、より一層、意図的、計画的に、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動、日常的な学校生活の場面等を含め、あらゆる教育活動を通じて繰り返し指導していくことが大切です。

道徳の時間では、児童生徒一人一人が 道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考え（小学校）や 道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚（中学校）を 深めることが重要です

⇒ 道徳の時間は、児童生徒一人一人が、自己を見つめ、
主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間です

道徳の時間は、学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、それらを補充・深化・統合する場であり、道徳的実践力を育成することをねらいとしています。

つまり、学校の教育活動全体で指導される「とちぎの子どもたちへの教え」も、道徳の時間において補充・深化・統合することが求められます。

その際には、児童生徒がねらいに含まれる道徳的価値について主体的に考えられるようにすることが大切です。

どのような指導を心がけるの？



とちぎの教育が目指す子ども像の実現に向けて 「とちぎの子どもたちへの教え」を 子どもたち一人一人に身に付けさせていきましょう

とちぎ教育振興ビジョン（三期計画）

【教育目標】

とちぎの教育が
目指す子ども像

- 心身ともに健康な子ども
- 主体的に考え表現できる子ども
- ねばり強く頑張る子ども
- 自他の存在を尊重し協同する子ども
- すすんで社会とかわり行動する子ども

栃木県教育委員会事務局学校教育課

〒320-8501 宇都宮市埴田1-1-20 TEL 028-623-3392 FAX 028-623-3399

本資料は、栃木県ホームページからダウンロードができます。

http://www.pref.tochigi.lg.jp/kyouiku/gakkoukyouiku/shou_chuugakkou/index.html



R100

「とちぎの子どもたちへの教え」の活用にあたって

栃木県教育委員会事務局学校教育課

小・中学校の先生方がリーフレットを活用するにあたっては、次のことに留意くださるようお願いいたします。

1 「とちぎの子どもたちへの教え」の自校化について

リーフレットに示した「とちぎの子どもたちへの教え」については、学校・学年・学級及び児童生徒の実態や課題と関連付けをし、どのような場面でどのように指導をしていくのかを検討して、繰り返し教えていくことが大切です。

そのためには、次年度の道徳教育全体計画を立てる際、「とちぎの子どもたちへの教え」を踏まえて、道徳教育や各学年の重点目標を設定し、自校の実態に応じた活用ができるようお願いします。

なお、その際、児童生徒、学校及び家庭・地域の実態に応じて、「とちぎの子どもたちへの教え」に指導すべき事項を追加するなどして、活用を図ることも考えられます。

2 児童生徒への個別指導の対応について

日常的な生活場面等の中で、「とちぎの子どもたちへの教え」に示す「人として、してはならないこと」をしてしまった子どもの行動に対して、後回しにするのではなく、その場で端的に戒めたり論したりするなど、その場面における適切な対応を行うことが重要です。

指導されたことが理解できなかったり、納得できていなかったりする場合には、少し時間を置いた上で、共感的な態度で、その行動の根本にある子どもの心の葛藤等と向き合ったり、教師間で子どもの抱える問題について話し合ったりするなど、その背景を明らかにし、その上で、子どもに継続的に関わったり、温かく見守ったりしていくことが大切になります。

〈指導事例集の配布〉

平成24年度は、「とちぎの子どもたちへの教え」に示した事項について、学校の教育活動の中で教えていく場面を想定した指導事例集を作成し、各学校へ配布する予定です。

今年度は、上記に示した留意事項に従って取り組まれるようお願いいたします。

現職教育資料

◇はじめに

- 1 道徳教育の基本的な考え方
- 2 教え育てる道徳教育について
- 3 道徳の時間の進め方

◇おわりに

学校における道徳教育の充実

～道徳教育の基本的な理解のために～

◇ はじめに

子どもたちの生活習慣の乱れやコミュニケーション能力の低下、責任感の欠如、モラルに欠ける行動など、子どもたちの道徳性に関わる問題が指摘される中、道徳教育の充実が求められています。

本号では、学校における道徳教育の基本的な理解が図られるよう、道徳教育の考え方や道徳の時間の進め方を確認するとともに、本県で推進している「教え育てる道徳教育」との関連等についても解説しました。特に教職経験の少ない先生方が疑問に感じると予想されることなどを会話形式で構成していますので、現職教育等でぜひ御活用ください。(※文中の(小p.〇〇・中p.〇〇)は小学校及び中学校学習指導要領解説道徳編の出版ページを示しています。また、書体を変更したり、下線を付したりしています。)



日頃、「道徳」について、どんな課題を感じていますか？

「教え育てる道徳教育」
って何？
道徳って教えるの？

「道徳教育」と
「道徳の時間」は、
どう違うの？

「道徳の時間」は、
どのように授業を進
めたらいいの？

道徳に関する用語は難しい。
「道徳的実践力」と「道徳的実践」
は何が違うの？

道徳の授業をやっても児童生
徒は変わらないような気がする。
効果が感じられない。



学校における道徳教育を再確認してみましょう。

1 道徳教育の基本的な考え方



「道徳教育」と「道徳の時間」は、どう違うの？

主な指導場面と目標が違います。
道徳教育は、「学校の教育活動全体」で、「道徳性」を養います。
道徳の時間は、「年間35時間の授業」で、「道徳的実践力」を育成します。



○ 学習指導要領から「道徳教育」と「道徳の時間」の関係は以下のように整理されます。

道徳教育

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、**学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。**

道徳性を養う

《参考》

「第1章 総則」の「第1 教育課程の一般方針」の2 中段

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

「第3章 道徳」の「第1 目標」前段

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳教育

道徳の時間

各教科

外国語活動

道徳性

総合的な学習の時間

特別活動

道徳教育は、道徳の時間、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動など、学校の教育活動全体を通じて**道徳性を養う**教育活動です。

道徳の時間は、他の教育活動の中核的な役割や性格を持ち、**道徳的実践力を育成する**教育活動です。

道徳の時間

道徳の時間においては、各教科等における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的実践力を育成する。

道徳的実践力を育成する

《参考》

「第3章 道徳」の「第1 目標」後段

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、**道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め**（道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め）、道徳的実践力を育成するものとする。 ※（ ）は小学校、（ ）は中学校

《参考》道徳の時間の役割を「道徳の時間を かなめ 要」として学校の教育活動全体を通じて行うもの」とし、「要」という表現を用いて道徳の時間の道徳教育における中核的な役割や性格を明確にした。（小p.7・中p.7）

道徳の時間は、道徳教育の「要」



道徳に関する用語は難しい。
「道徳的実践力」と「道徳的実践」は何が違うの？

「道徳的実践力」は、目に見えない内面的資質です。
「道徳的実践」は、具体的行動です。



- 道徳性を構成する諸様相を「小学校低学年 2-（3） 友達と仲よくし助け合う」の内容項目を例にすると、以下のように整理されます。

- 道徳的心情：「友達と仲よくして、助け合いたいな」
道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情
- 道徳的判断力：「友達と仲よくして、助け合うことはよいことなんだ」
それぞれの場面において善悪を判断する能力
人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力
- 道徳的実践意欲と態度：「友達と仲よくして、助け合っていこう」
道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性
- ・道徳的実践意欲：道徳的心情や道徳的判断力を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き
 - ・道徳的態度：それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

道徳的実践力

- ・人間としてよりよく生きていく力
- ・道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような**内面的資質**
- ・主として、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度を包括するもの

- 道徳的行為：友達と仲よくし助け合う
- 道徳的習慣：いつも友達と仲よくし、助け合っている
長い間繰り返して行われているうちに習慣として身に付けられた望ましい日常的行動の在り方

道徳的実践

道徳性

道徳的実践力が育つことによって、より確かな道徳的実践ができる。

道徳的実践力

- 道徳的心情
- 道徳的判断力
- 道徳的実践意欲
- 道徳的態度

道徳的実践

道徳的実践を繰り返すことによって、道徳的実践力も強められる。



学習指導要領解説道徳編において、「道徳性の育成においては、道徳的習慣をはじめ道徳的行為の指導も重要である。（小p.28・中p.29）」とあるように道徳の時間とともに各教科や外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、そして日常生活で行う道徳的実践の指導も大切にしましょう。

2 教え育てる道徳教育について

道徳性の育成においては、道徳的行為（道徳的実践）の指導も重要であることは、前頁でも確認しました。道徳教育は、道徳の時間はもとより、あらゆる教育活動を通じて行われるものです。では、道徳の時間以外の道徳教育とは、どのような教育活動なのでしょう。『「とちぎの子どもたちへの教え」指導事例集』では、道徳的実践の指導として、道徳の時間以外の道徳教育の具体的な指導場面を示しました。



「教え育てる道徳教育」って何？ 道徳って教えるの？

「教え育てる道徳教育」とは

人としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を育むために、「教えること」（主として道徳的実践の指導）と「育てること」（主として道徳的実践力の育成）をともに大切にしながら、互いに関連付けて指導する教育活動のことです。

「教え育てる道徳教育」概念図

人としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を育みます。

教える

道徳的実践の指導

・ 日常生活場面等を含むあらゆる教育活動の中で、道徳的価値を意識させながら、道徳的行為が身に付くように繰り返し指導します。



関連付け

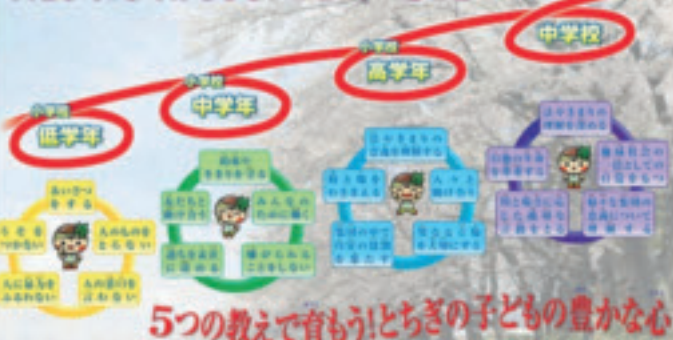
育てる

道徳的実践力の育成

・ 道徳の時間を中心に、道徳的価値の自覚が深まるように指導したり、自己や人間としての生き方について深く考えさせたりします。

とちぎの子どもたちへの教え
～人として、してはならないこと、すべきこと～

とちぎの子どもたちへの教え
人として、してはならないこと、すべきこと



栃本県教育委員会



子どもたちの中には、道徳性が十分に身に付いていない子どももいますが、その原因の一つに「教わるべきことをしっかりと教わっていない」ことが考えられます。

そこで、県教育委員会では「道徳的実践の指導」の充実に向けて、日常生活場面等を含むあらゆる教育活動を通して、「人として、してはならないこと、すべきこと」をしっかりと教えられるように、「とちぎの子どもたちへの教え」を示しました。

また、道徳の時間では、「とちぎの子どもたちへの教え」の各指導事項との関連を十分に図った上で、考えさせたり、気付かせたりしながら「道徳的実践力を育成」し、子どもたちが各学年段階で必要な道徳性を身に付けられるよう、「教え育てる道徳教育」を推進しています。



次のページでは、「道徳的実践の指導」と「道徳的実践力の育成」の具体的事例について確認します。

「道徳的実践の指導」と「道徳的実践力の育成」について

「道徳的実践の指導」と「道徳的実践力の育成」について、「友人への悪口」を例にして考えてみましょう。

道徳的実践の指導

悪口をやめさせる指導



悪口はやめなさい。
言われてた人は、
どんな気持ちになりますか？



道徳的実践力の育成

悪口をやめようと思う
内面的資質の育成



道徳の時間が中心
・思いやり ・友情
・公德心 ・寛容
・善悪の判断 等

【道徳的実践の指導】

悪口を言っている場面を見逃さず、悪口をやめるよう指導するとともに、悪口に関わる道徳的価値を確認することで、今後も悪口を言わないようにさせます。機会を逃さず、その場で指導することが重要です。

【道徳的実践力の育成】

道徳の時間を中心に、悪口に関わる道徳的価値について、考えを深めたり、より高い価値に気付かせたりしながら、悪口をやめようと思う内面的資質を育てます。計画的、発展的に指導することが重要です。

子どもたちの道徳性を高めるためには、「道徳的実践の指導」と「道徳的実践力の育成」を互に関連付けて指導することが重要になります。例えば、道徳的実践の指導場面を道徳の時間の振り返りで生かしたり、道徳の時間で深めた道徳的価値に基づいて、道徳的実践の指導の充実を図ったりすることが考えられます。

○道徳的実践の指導（「教える」）の留意点

大切なことだからといって一方的に教え込むのではなく、時には考えさせる時間をとりながら、子どもを納得させていく指導が重要です。また、指導に当たっては、関連する道徳的価値を十分に意識させるとともに、一人一人の子どもの中にある「よりよく生きたい」という思いに気付かせるような配慮も必要になります。

上の例で言えば、その場面を見逃さず、悪口をやめさせる指導とともに、小学校低学年の内容項目1-(3)や2-(3)を意識して、悪口を言うことが、なぜいけないのかを考えさせたり、悪口を言われた相手の気持ちを考えさせたりしていくことが、「教える」ことになります。

『「とちぎの子どもたちへの教え」指導事例集』では、右のような具体的な指導事例を示しました。詳しくは指導事例集を参照してください。

小学校低学年 人の悪口を言わない

指導する内容項目
1-(3) おいことと悪いことの違いをし、よいことと悪いことから、(関係)40
2-(3) 友達とよくし、あつあつ、(関係)40

指導の場面

この授業の授業は、道徳の時間を中心に行われ、道徳の時間を活用して自分自身や周囲の人々を思いやることを目指しています。そのため、相手に悪口を言うような行為は、悪口になってしまふことになり、悔しい気持ちになります。相手に悪口を言うことは、自分自身や周囲の人々を思いやることになりません。

どうして友達に悪口を言ったのですか？

悪口を言うのは、悔しい気持ちから・・・

でも、それは、わざとそうなのですか？

わざとじゃないのは分かるけど・・・

はい、上手に上手に悪口を言ったから・・・悪口を言うのは、悔しい気持ちから・・・悪口を言うのは、悔しい気持ちから・・・悪口を言うのは、悔しい気持ちから・・・

悪口を言うのは、悔しい気持ちから・・・悪口を言うのは、悔しい気持ちから・・・悪口を言うのは、悔しい気持ちから・・・

【指導上の留意点】

- ・悪口を言う場面が明らかになったら、その場を止めて振り返り、悪口を言うことが、なぜいけないのかを考えさせることが大切です。
- ・悪口を言う場面が明らかにならない場合は、悪口を言われた相手の気持ちを考えさせていくことで、自分の思いやりの気持ちを育て、よりよい関係を築くことに気付かせることができます。

3 道徳の時間の進め方

「教えること」(道徳的実践の指導)に焦点を当てて解説しました。ここでは、「育てること」(道徳的実践力の育成)の場である、「道徳の時間」について確認します。



道徳の年間指導計画を、指導者の考えや児童生徒の様子から判断して、他の教育活動を行ったり、内容を変更したりしていいの？



指導者の恣意による不用意な変更や修正は行われるべきではありません。

○こんなことはありませんか。

【事例】 教職3年目で、中学校2年生の担任をしている太郎先生が、遅案を書きながら、来週の「道徳の時間」について、年間指導計画を確認しました。

- | | | |
|---|-------|---|
| ア | 指導の時期 | 7月 第3週 |
| イ | 主題名 | 規則と義務 内容項目 4-(1) |
| ウ | ねらい | 秩序と規律ある社会を実現するために、社会の一員として自らに課せられた義務を確実に遂行しようとする態度を育てる。 |
| エ | 資料 | 「二通の手紙」 (文部省 中学校 社会のルールを大切に作る心育てる) 以下略 |



夏休み前なので、学級活動に変更して、夏休みの生活について話し合う方が大切だと思うな。



夏休み前で、生徒が落ち着かない。主題を「節度・節制」に変更して道徳の授業をすると、効果が期待できるかも。

道徳の時間の年間指導計画とは

学習指導要領には、「年間指導計画は、…意図的、計画的に作成されたものであり、指導者の恣意による不用意な変更や修正が行われるべきではない。」(小p.72・中p.75)とあります。

道徳の時間の年間指導計画は、重点的な指導や内容項目間の関連を考慮しながら、年間を見通して全ての内容項目を取り上げられるよう作成したものである点を重視しましょう。

変更や修正が必要になった場合

変更や修正を行う場合は、児童(生徒)の道徳性の育成という観点から考えて、より大きな効果を期待できるという判断を前提として、少なくとも(道徳教育推進教師を含め)学年などによる検討を経ることが望ましい(必要である)。そして、変更した理由を備考欄などに記入し、今後の検討課題にすることが大切である。(小p.72・中p.75) ※ ()は中学校



「道徳の時間」の年間指導計画は、計画的、発展的に指導できるように作られているのですね。年間指導計画に従って、授業をしようと思います。



教師自身が「道徳の時間」を大切にしなければ、児童生徒は、「道徳なんて適当でいいんだ。」とってしまいます。まずは、1時間1時間の「道徳の時間」を丁寧に扱きましょう。



「道徳の時間」は、どのように授業を進めたらいいの？

道徳の時間の学習過程は、一般的に下の表のように、導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われています。さらに、展開を、資料を通して話し合う前段と、資料を離れ自分のことを振り返る後段に分けることも一般的です。

1時間の授業において、各段階の意図を踏まえて指導することが大切です。

○道徳の時間の一般的な学習指導過程（小p.84・中p.88-90）

過程	小学校	中学校
(1) 導入	主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る段階	主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、生徒一人一人の意識をねらいの根底にある道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚に向けて動機付ける段階
(2) 展開	主題のねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な資料によって、児童一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値についての自覚を深める段階	道徳の時間のねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な資料によって、生徒一人一人がねらいの根底にある道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める段階
(3) 終末	ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして、今後の発展につなぐ段階	1時間の授業のまとめをする段階 ・生徒の考えを整理する ・今後の発展につなぐ



道徳の時間の質を高めるために

「展開」の段階で、道徳的価値の自覚を深める活動を丁寧に行いましょう。

○道徳的価値の自覚とは

- ・道徳的価値についての理解
「～は大切なんだ」
「～とはこういうことなんだ」
- ・自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられること
「これまでの自分は～についてどうだったのか」
- ・道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われること
「もっと～であるようになりたい」



次のような授業は、道徳の時間の特質から離れていますので気を付けましょう。

- ・資料の読み取りを中心とする進め方 → 内容を把握することが目的ではありません。
- ・子どもや学級が抱える問題の直接的な解決の話し合い → 特別活動ではありません。
- ・車椅子体験、アイマスク体験など体験活動に終始した授業 → 体験が目的ではありません。
- ・エンカウンターなどコミュニケーションや人間関係を深めるスキル学習
→ スキルを高める時間ではありません。 など



道徳の授業をやっても児童生徒は変わらないような気がする。
効果が感じられない。

道徳の時間は、次のような性格をもっています。

- (1) 自分を見つめることを通して見えない心を鍛える
- (2) いつか将来、適切な行為を選ぶことを期待する
- (3) 即効性を求めない

生活に例えるなら、「道徳の時間」は毎日の食事のようなものです。
毎日、規則正しく食事をすることで、健康な体がつくられるように、年間指導計画に従った道徳の授業により、道徳的実践力が育成されていきます。
健康な体がつくられると、よりよい生活が送れるように、道徳的実践力が育成されると、道徳的実践ができるようになります。
だからこそ、計画的、発展的な指導が大切なのです。



○ 道徳の時間における道徳的実践力の育成

道徳的実践力を育てることを目的とする道徳の時間においては、その特質を十分に理解して、教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないように特に留意し、それにふさわしい指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫をすることが大切である。道徳的実践力は、徐々に、しかも、着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされなければならない。(小p.31・中p.32)

◇ おわりに

人間は本来、人間としてよりよく生きたいという願いをもっている。この願いの実現を目指して生きようとするところに道徳が成り立つ。道徳教育とは、人間が本来もっているこのような願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動である。(小p.15・中p.15)

子どもは誰もよりよく生きたいという願いをもっており、その願いを実現できるよう、子どもたちの道徳性を意図的・計画的に養っていく必要があります。そのためには、各学校の全体計画で道徳教育の基本方針を示すとともに、学校としての重点目標を明確にすることで、学校で行う道徳教育に方向性をもたせることが重要となります。

県教育委員会で推進している「教え育てる道徳教育」は、学年段階ごとに示した五つの指導事項を重点に、全ての教育活動で「教え」ていき、道徳の時間を中心に「育て」ていくことで、子どもたちの道徳性を養っていく教育活動です。各学校においては、ぜひ「とちぎの子どもたちへの教え」に指導すべき事項を追加するなど自校化してほしいと思います。

本号は、道徳教育に不安をもつ教員であっても、自信をもって道徳教育を実践できるようにという願いを込めて編集しました。本号で解説した内容は、あくまで入口です。ぜひ実践を積み重ねて、子どもたちのよりよく生きようとする力を伸ばして行ってほしいと思います。

本号に掲載した「教え育てる道徳教育」指導資料に関連する PDF データは県のホームページからダウンロードできます。

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m04/education/gakkoukyouiku/shouchuu/doutoku.html>

【ホーム > 教育・文化 > 学校教育 > 小・中学校 > 「教え育てる道徳教育」指導資料】

栃木県道徳教育郷土資料集（小学校高学年編）作成委員

(所属、役職等は平成26年12月末日現在)

	氏 名	所属・役職等
1	吉 本 恒 幸	聖徳大学大学院 教授
2	濱 田 義 人	上三川町立上三川小学校 教諭
3	内 海 雅 之	日光市立中宮祠小学校 教諭
4	國 井 朱 美	市貝町立赤羽小学校 教諭
5	青 田 由美子	小山市立小山第二小学校 教諭
6	桑 原 裕 子	さくら市立南小学校 教諭
7	戸 崎 博 文	那須塩原市立西小学校 教諭
8	仲 山 弘 美	佐野市立天明小学校 教諭
9	腰 塚 雅 之	河内教育事務所 指導主事
10	大 貫 雅 子	上都賀教育事務所 副主幹
11	阿久津 裕 美	芳賀教育事務所 副主幹
12	土 方 勝	下都賀教育事務所 指導主事
13	青 木 均	塩谷南那須教育事務所 副主幹
14	江 連 悦 子	那須教育事務所 副主幹
15	根 岸 美登里	安足教育事務所 指導主事
16	金 敷 美由紀	総合教育センター 副主幹
17	三 澤 雅 子	総合教育センター 副主幹

なお、学校教育課においては、次の者が事務局員として本書の編集に当たった。

課長	宇 梶 宏 美
主幹	野 中 和 明
課長補佐	齊 藤 正 幸
副主幹	堀 江 賢
副主幹	村 石 紀代美
指導主事	石 渡 美 穂

表紙写真：那須町の朝日岳



いきいき栃木っ子3あい運動
学びあい、喜びあい、はげましあおう

「教え育てる道徳教育」指導資料
ふるさと とちぎの心
栃木県道徳教育郷土資料集（小学校高学年編）教師用指導書

平成27年3月発行

〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田1-1-20

栃木県教育委員会事務局学校教育課

TEL 028-623-3392

FAX 028-623-3399

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m04/education/gakkoukyouiku/shouchuu/doutoku.html>

【ホーム>教育・文化>学校教育>小・中学校>「教え育てる道徳教育」指導資料】
